

高速凝固タイプの真空採血管の凝固トラブルについて



事象	高速凝固タイプの真空採血管で、遠心分離後に血清中に”キノコ雲”のような血餅の塊を認めることがあります。	
原因	採血後に激しく混和することにより、気泡を巻き込みながら凝固したことが原因です。気泡が混じった血餅は分離剤よりも比重が低く、遠心分離することにより血清の層に移動します。	
予防	採血直後の転倒混和は、ゆっくりと行ってください。 (激しく混和することで気泡が発生します)	
発生時の対応	遠心前	凝固の過程で発生した気泡は細かく、遠心前にその存在を認識できません。したがって、遠心前（開栓前）に本事象に対応することは難しいのが現状です。 (遠心分離して初めて認識されることがほとんどです)
	遠心後	血餅（血球）内成分が浸出して溶血のようになり、カリウム等の値に影響を与えるリスクがあるため、それを防止するように対応します。 遠心直後であれば、①デカンテーション、もしくは②ピペットを用いて別容器に血清のみを移します。血餅の塊が分離剤から突き出ている（浮いていない）状態であれば、①のデカンテーションの方が比較的効率よく血清を分取できます。 そのままの状態が経過すると、徐々に血餅の塊の成分の影響により溶血状態となります。

※上記は一般的な内容です。詳細は各製品の添付文書をご参照ください。